

# 「新しい茨城づくり」の実現に向けて

茨城県知事 ● 大井川 和彦



茨城県は、温かな気候で自然災害が少なく、都市的な生活と豊かな自然が共存する大変暮らしやすい県です。県内には、日本三名瀑のひとつである袋田の滝や霊峰・筑波山など雄大な自然環境に加え、日本遺産に認定された弘道館や日本三名園のひとつである偕楽園など歴史的な観光資源にも恵まれています。最近では、国営ひたち海浜公園の丘一面を鮮やかなブルーで染めるネモフィラや秋の真っ赤なコキアが国内外から高い評価を得ています。

また、広大で肥沃な農地、黒潮と親潮が交錯する豊かな海を有し、メロンやレンコン、サバ、アンコウなど、品質の優れた農林水産物が獲れる「食の宝庫」として日本の食卓を支えています。

本県では、これらの地域資源を活用しながら、「活力があり、県民が日本一幸せな県」を実現するため、今後の県の具体的な方向性を示す「新しい茨城づくり政策ビジョン」を策定・公表し、この政策ビジョンをさらに具体化する「新たな茨城県総合計画」の策定を進めていきます。

政策ビジョンでは、県民の皆様が「豊かさ」を享受し、「安心安全」な生活環境のもと、未来を担う「人財」が育まれ、「夢・希望」に溢れた茨城を実現していくため4つのチャレンジに取り組んでいます。

具体的には、新たな成長分野の本社機能等の移転に対して、全国トップクラスとなる最大50億円の補助制度を創設するなど誘致を進め、若者にとって魅力的な質の高い雇用を創出するとともに、農地の集積・集約を加速化し「茨城モデル水稲メガファーム」を育成するなど「儲かる農業」への転換を図ります。喫緊の課題となっている医師確保については、「茨城県医師不足緊急対策行動宣言」に基づき、県立高校・中等教育学校5校において医学コースを創設するなど、あらゆる手段を講じ、県民の命を守る基盤の整備を進めてまいります。

また、急速に進むグローバル社会において自ら考え、行動し、解決できる人財を育成するため、トップレベルの英語やプログラミング教育などに取り組みます。さらに、人気のサイクリングスポット「つくば霞ヶ浦りんりんロード」などの地域資源を活用した魅力の発信や、本県のフラッグシップとなるプレミアムホテルの誘致といった新たな観光の創生を進めてまいります。

一方、政策ビジョンの実現には、実際にそれを執行する組織体制が極めて重要であると考え、本年4月に大幅な組織改編を行いました。その中で、県のブランド力を高め、どのようにマーケティングしていくかに売り込んでいくかという課題に対応するため、企業誘致や企業の海外展開支援、県産品の販路拡大、観光などの営業活動を統一的かつ強力に推進する「営業戦略部」を設置しました。組織の名称や形態が変わることで職員の意識も変わり、これまで以上にスピーディーかつ柔軟に政策が実行可能となり、PDCAサイクルによる「選択と集中」を徹底することで観光や県産品などの高付加価値化による茨城ブランドの確立を進めます。

本年10月には世界湖沼会議が開催され、来年にはG20貿易・デジタル経済大臣会合、茨城国体・全国障害者スポーツ大会、さらに2020年には、茨城カシマスタジアムにおいて東京オリンピックのサッカー競技も開催されます。本県の魅力を国内外に向けてアピールする絶好の機会ですので、私自身が「顔の見えるセールスマン」として先頭に立ち、積極的に情報を発信します。

新しい茨城づくりは決して簡単なことではありませんが、新しい発想で諦めず、常識を疑い、自ら変わる勇氣を持って挑戦すれば必ず希望に満ちた茨城の未来を築くことができると思っています。

時代が大きく変わろうとする中で、県民の皆さんと力を合わせながら、未来に希望の持てる新しい茨城づくりに全身全霊で取り組んでまいります。